

# ARAI NEWS

Actual Story From Inside.

## 世界の トップライダーと Arai。



ここ数年、世界GPを走るライダーの中でアライを選ぶライダーが増えているのをお気づきの方もいらっしゃるでしょう。なぜ彼らがアライを選ぶようになったか、興味深いエピソードもいくつかあるので、紹介させて下さい。

最近では体調不十分のため、世界GPになかなか顔をみせてくれないフレディ・スペンサー選手。しかし、その天才的な素質については、本当の走りを知る人々のあいだでは、いまだ神話です。フレディは知つての通り、横つからのアライファン。もう、他のヘルメットはかぶる気がしないそうです。16歳の頃からアライをかぶり続けている彼。めったに転倒することがなく、たまに転倒してケガをしてしまった時には、自然に完治するまでレースに出場しないことでも有名です。でも、頭に関しては脳しんどうをおこした事がないそうです。そんな信頼感からもアラ

イ以外かぶれなくなっているでしょう。マイク・ポールドウィン選手は、8年位前に九死に一生の大クラッシュを演じ、一年間以上、レース生活を棒に振つたことがありました。彼は、その時かぶっていたのがアライだったために、命びろいした。安全性に対するアライへの信頼感により強くなった。」と語っています。こうした大きな事故からよみがえつてくる彼のプロ意識はいへんなもので、シールド一枚でも自分で丹念に確認して、自分の手で取り付けます。「勝つために走るのだから、勝つためのヘルメットを選ぶ。ヘルメット一つでも微妙に勝敗に影響を及ぼすことがある。だからこそ、ネジ一本でも自分の手で確かめる。」そんな彼の言葉にも、勝利に対する執念と、安全性についてのまじめな取り組みが感じられます。彼は、西ドイツGPでのクラッシュの為、現在戦列を離れています。アライも、彼の一日も早い回復を祈っています。

クリスチャン・サロンとロン・ハスラムの二人の選手から、時を同じくして同じ内容の電話がアライのヨーロッパに届いてきたのは85年の夏でした。「もし、次のレースが雨だったならば、アライを使わなければならない。どこで買った方がいいか教えてくれ」というのです。実はその前の週、嵐の中で行われたイギリスGPで、多くのライダーがシールドのくもりで前方視界が悪く、リタイヤしてしまいました。そんな中で、トップを走るスペンサーをはじめアライをかぶるライダーは何の問題もなく走っているのを見て、テレビ解説のバリー・シーンが「これぞ宇宙時代のシールド」と言つたのを聞き

つけてのものでした。ランドー・マモラ選手は、今年からアライの契約選手になりましたが、実は以前からアライのユーザーだったのです。とはいっても、それはトレーニングの為に走るモトクロスでの話し、たまたま買ったヘルメットがアライのM1Xだったのですが、そのフィット感にはびびり、それ以来モトクロスに乗り出す時は、M1Xが手離せなくなつたそうです。今年からレースでもアライを使い初め、フィット感とシールドの曇りに対しても心配がなくなり、集中力を妨げられる恐れがなくなつたと大変喜んでいました。

その他にも、信じられないような話もあります。今年からアライをかぶるようになったあるライダーは、昨年まではどうしても都合によりアライをかぶれなかったのです。でも、昔使つたアライのかぶり心地が忘れられなかった彼は、自分で買ったアライを二つに切つて、内装を取り出し、他のヘルメットに押しこみ、アライのかぶり心地に近づけようとした、ということでした。そんな彼も今年から本物をかぶれるようになり、安全面でも問題がなくなつたと喜んでいました。よくプロと言われる人の中には、プロだから契約金第一だ、と言う人もいます。しかし、アライを選んでくれた彼らは、安全で集中を妨げないヘルメットとは真剣に考えたのです。そんな方々の信頼をも裏切らぬよう、これからアライは頑張ります。

